



M163 誤嚥(ごえん)シミュレーター

え ん げ
嚥下のメカニズム模型

実習項目

- ① 嚥下の仕組みを学習
- ② 誤嚥がどのようにして起こるのかを学習
- ③ 食事のときの正しい姿勢とベッド角の関係を学習
- ④ 食物が詰まったときの救急ケアの練習
- ⑤ 嚥下訓練、口腔内のケアの仕方を練習
- ⑥ 経鼻チューブの挿入状態、間歇的チューブ摂食法の学習
- ⑦ 口腔内吸引の学習



経鼻チューブの挿入状態を角度を見ながら確認できます。

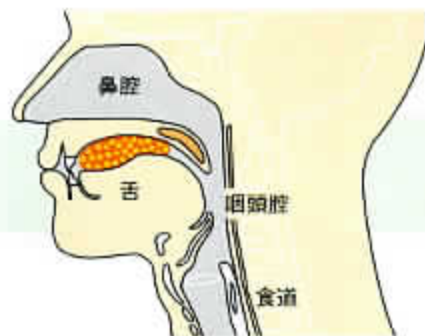


間歇的チューブ摂食法を角度を見ながら学習できます。

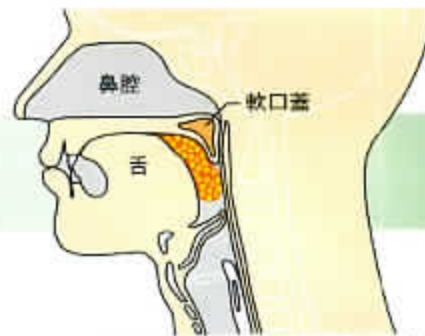


嚥下のメカニズム (誤嚥のようす)

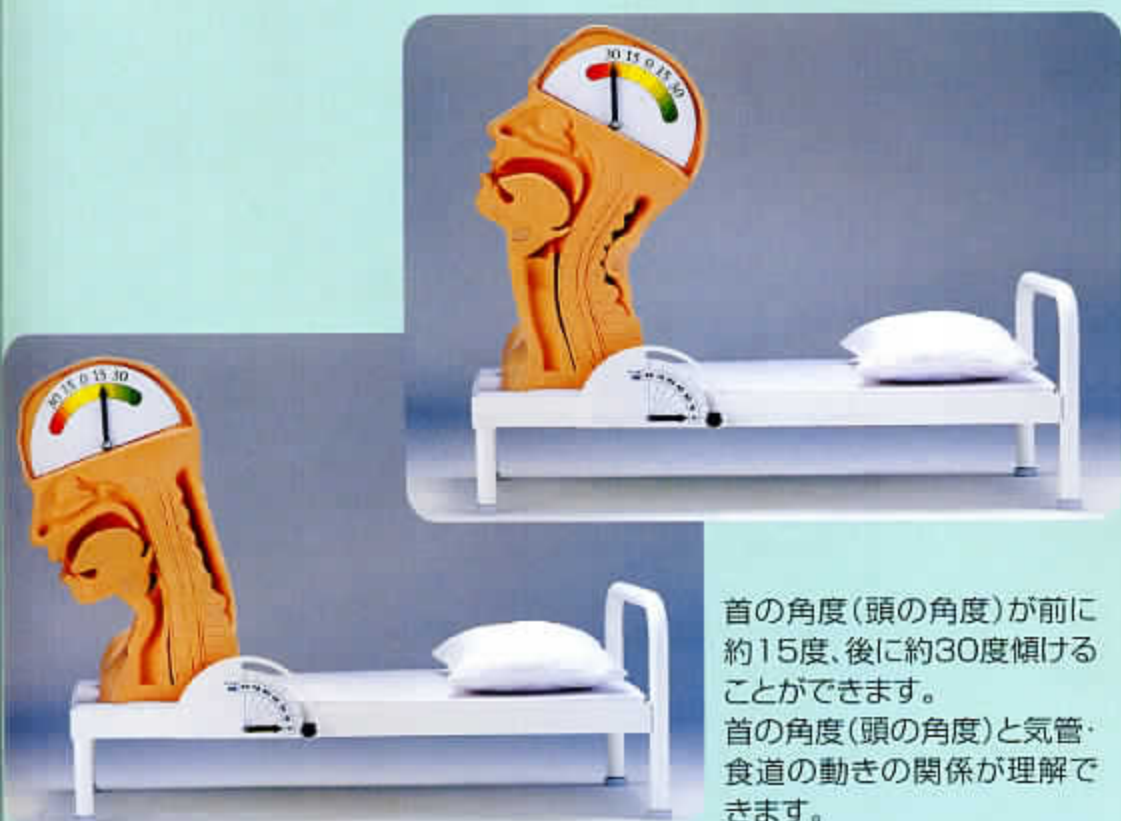
「嚥下」はそしゃくされた食物を体内へ取り込むための重要な関門です。右図は「嚥下」の仕組みと「誤嚥」の様子をあらわしています。



そしゃくされた食物は口腔、咽頭腔、食道というルートを通過します。



そこにはわき道を遮断する機構があり、食塊が舌の運動によって咽頭腔へ送られる時、軟口蓋が鼻腔にふたをし、食塊を下方へ向かわせます。



首の角度(頭の角度)が前に約15度、後に約30度傾けることができます。
首の角度(頭の角度)と気管・食道の動きの関係が理解できます。



口腔ケア

舌はやわらかく引っ張り出せるか
舌や口腔周囲筋の訓練、吸引の練習

摂食姿勢の キーポイント



- 浅く腰かける
- 頭が後方に反り返る
- 手足、体全体が伸びている
- 足が床から離れている



- 深く腰かける
- 膝は90°に曲げる
- 太ももが浮き上がらないように
- 足は床や台にしっかりつける
- 机の高さは肘に合わせる

頸部伸長:緊張する



首と体幹との角度



があり、食塊が
れる時、軟口蓋
向かわせます。



食塊が咽喉腔から食道へ向かう際には喉頭蓋によって
気管に通じる喉頭口がふさがれます。この時、声帯や室
壁も閉じることで、さらに気道の保護がおこなわれます。



嚥下反射が起こらないか遅れるために
生じる誤嚥によって、食塊の一部が気管
に入り肺炎や窒息の原因となります。



取り扱い説明

- ミニチュアギャジベッド(角度目盛付)はベッド角度を任意に変えることができます(0度～90度)。
- ベッドの角度を変えるときは、右手前の取っ手をもってマットを持ち上げ、裏側にあるストッパーを下ろし任意の溝に置いて角度を決めてください。
- 首の角度(角度目盛付)を任意に変えることができます(前に約15度、後に約30度。首を前後に曲げるときは、模型の肩の部分を押え、ゆっくりおこなってください)。
- 実習するときは、本体を水平に設置しておこなってください。
- 透明カバーは、取り付けると各部の名称を知ることができます。
- ワイヤー付き食塊模型を用いて説明できます。
- やわらかい新素材を採用し、口腔内は生体に近似していますのでニーズに合った様々な方法で実習なさってください。

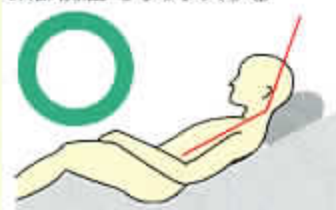
使用上の注意

- 首は前に約15度、後に約30度曲げられますがそれ以上無理に曲げないようにお願いします。
- 危険ですし壊れますので、頭の部分とベッド横の角度表示針に触れないようにしてください。
- マットをもとの角度にもどすときは、ベッドの金具に指を挟まないよう気を付けてください。
- 模型部分は回転して危険ですので、持ち運びをするときは、模型をベッドに寝かせた状態で、水平に持って移動してください。
- このモデルの筋肉部分は、材質上汚れやほこりが付きやすい素材ですので汚れたときは中性洗剤を付けてふき取ってください。

引っ張り出せるため、嚥下訓練、
の訓練、吸引の練習ができます。



頸部前屈:リラックスする



Zimmermanらの すすめる体位

(Zimmerman JE,1981より引用)

- 頭の後に枕を置き頸部を前屈する
- (80～)90°ベッドアップ





嚥下の仕組みを学び、 誤嚥を防ぐ実践的な 方法を練習できる！

この「嚥下のメカニズム模型」は、介助者が、
嚥下の仕組みと嚥下障害（誤嚥）を防ぐ
正しい食事介助の仕方を学び、
老人介護の盲点となっている
嚥下障害による肺炎などを
防ぐことを目的に開発された医療教材です。

摂食時における正しい姿勢の一例



ベッド角30度・首の角度（頭の角度）前に15度

¥450,000

本体：高さ33cm×幅62cm×奥行33cm 約10kg
付属品／透明カバー・枕・ワイヤー付食塊模型

監修／静岡県立大学短期大学部社会福祉学科助教授 石野 育子先生

Swallowing Mechanism Model

Learn the mechanism of swallowing, and practice practical way of preventing miss-swallowing!

This Swallowing Mechanism Model is a medical teaching equipment that was developed with the purpose of helping helpers learn the mechanism of swallowing and the proper method of preventing swallowing disorders (miss-swallowing) when giving assistance in eating. It should help prevent pneumonia caused by swallowing disorders which is often overlooked in caring for the elderly.



Practice items

- Study the mechanism of swallowing
- Learn what causes miss-swallowing
- Study proper posture when eating and its relation with bed angle
- Study neck angle (head angle) and its relation with miss-swallowing
- Practice emergency care when food gets stuck
- Swallowing drills and practice in giving mouth care

M163

Swallowing Mechanism Model

¥450,000

Supervision/ Shizuoka Junior College Social
Welfare Course Assistant Professor Prof. Ikuko Ishino

- Learn how to insert tube through nose, and the intermittent tube eating method
- Study internal mouth absorbency

Example of proper posture when eating



bed angle 30°
neck angle (head angle) 15°

Mouth care



The tongue is soft and able to pull out. Can have swallowing drills, study the tongue and muscles surrounding the mouth, and practice absorption.



Can confirm condition of the tube inserted through the nose, while observing the angle.



Can learn intermittent tube eating method, while observing the angle.



- Neck angle (head angle) can be bent about 15° forward and about 45° backward.
- Can comprehend the relation between neck angle (head angle) and movement of windpipe / Eesophagus.

株式会社坂本モデル



〒606-0865 京都市左京区下鴨東高木町34
TEL:075-701-1135(代) FAX:075-722-5638
E-mail:info@sakamoto-model.com
URL:<http://sakamoto-model.co.jp>